

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371401437
法人名	有限会社 アートプロジェクト
事業所名	グループホーム名古屋滝ノ水の家
訪問調査日	平成 19 年 7 月 29 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 12 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2371401437
法人名	有限会社アートプロジェクト
事業所名	グループホーム名古屋滝の水の家
所在地	名古屋市緑区滝の水5-505-2 (電話)052-899-5750

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成19年7月29日	評価確定日	10月12日

【情報提供票より】(19年6月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 9 月 9 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 8.4

(2)建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り
	2階建ての 階 ~ 全 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5万7千 円	その他の経費(月額)	1万5千 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(10万 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1300	円

(4)利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名	
要介護1	7 名	要介護2	5 名			
要介護3	5 名	要介護4	名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	83.7 歳	最低	63 歳	最高	102 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	佐藤内科 ナルミ歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の中にあるホームである。開所時には地域住民の反対があったが、約1年を経てスタッフの努力により最近では「介護に関する相談が出来る所」として、地域の人々に円満に受け止められるようになりつつある。ホームの理念は「あなたとともに暮らす。いつもニコニコ明るい笑顔、介護はゆっくり仕事は速く」である。建物の横にある庭では利用者が職員と共に野菜や花作りをしたり、ベンチでくつろいでいる。家族は、毎日ホームを訪れる人利用者を外泊や食事に連れて行く人など、職員の対応が良く気楽にホームを来訪されている。職員の研修で特徴的な事は、研修分野の如何を問わない事であり、承認を得たものには研修費補助制度が適用される事である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めてである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はたたき台をもとにスタッフに意見をだしてもらいながら、評価をすすめた。自己評価に取り組んだ事で、自分たちが今まで気が付かなかった事、たとえば利用者を「ちゃん」と付けて呼んでいたが、高齢者に対する尊敬をあらわすために「さん」と呼ぶようになったなど、気がきがかった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は6月に行なっている。出席者は自治会長・民生委員・協力医・家族代表などである。内容はホームに対する要望であった。ホームもそれに対して出来るだけ答える事が出来るように努力している。それにより地域の住民の介護の相談場所としての意識付けが出来つつある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は家族からの要望や意見、苦情などは直接聞いている。要望は積極的に取り上げて、会議などで検討出来る事はケアサービスに反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や買い物などでの挨拶から始まり、地域住民に理解を深めてもらう為に、協力を願って頻りに自治会に足を運びホームの説明をしてきた。それにより地域との関係が出来つつある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念にうたってある「あなた」は自分以外のすべての人が対象であり、地域やホームのスタッフとともに暮すことが出来るようにという思いのもとに理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のケアが理念にそってできているかどうか、定期的にスタッフ全員(パートも含めて)で話し合っている。その中では事例検討もされている。朝礼でも再確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の住民に理解を深めてもらうために、頻繁に自治会に足を運びホームの説明等をしている。また、自治会の役員が変わるたびに挨拶をしている。	○	地域の住民の中に、ホームに来て介護について、相談すればなんとかなるだろうという感覚ができています。今後も地域とのつながりを深められるように期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価を作成し、それを基に職員会議を開き、まず言葉使いについて気づきがあった。それを改善しつつある。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一回目は実施。そこで、ここが地域の老人のたまり場のような機能をはたすことができれば、という意見もでた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の利用者がいるのでその関係者との連携はある。	○	介護保険課がメインなのでつながりをつくる事が出来るように機会をとらえて行動されたい。何でも相談しあう事のできる関係づくりが望ましい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居時の相談の時にも説明してあるが、月に一回請求書を家族に渡す時などに利用者の様子を話したり、用事で連絡をする際に伝えたりと機会を見つけては家族に様子を知らせている。本人に電話に出てもらう時もある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の来訪時などに意見や不満、苦情を聞いている。家族からの要望、たとえば抹茶をたてても良いかなど積極的にとりあげて、ケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所時からみるとやむを得ずスタッフが半分変わっている。基本的には馴染みのスタッフが、固定でケア出来る事が望ましいと考えている。	○	職員の異動や離職がある場合でも、利用者のダメージを防ぐ工夫をされたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修費補助制度ができ、広い範囲にわたっての研修が可能になった。職員の個々の外部研修は本人の休暇に行っている。	○	研修は、一人でも多くのスタッフが専門性だけでなく人間的な成長をも含めての研修に参加出来るよう努力されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋のグループホーム分科会に参加して、交流を図ったり、情報交換に役立っていたりしている。	○	相互に訪問しあったりして、お互いの学ぶべき所を学ぶ場にされると良いのではないだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームに来訪してもらい、ホームに馴染めるかを観てもらったり管理者が自宅を訪ね、本人や家族と話し合い、不安を抱かないように入居してもらえるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	編み物の好きな利用者に毛糸のたわしを作成してもらったり、クラシック音楽の好きな利用者には時折食事時などに流したり、食事の後かたづけなど職員と一緒にいるなど、日々の生活の中で共に支え合う関係を築いている。	○	今後も利用者との信頼関係を築き、共に支え合える関係を築く事を望む。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者で夕食に毎日ビールを晩酌される人がいたり、散歩の好きな人には一緒に散歩をするなど利用者の言葉や表情から思いを受け止め、本人にとって暮らし易いのはなにかを職員は日々工夫しながら支援している。	○	今後も利用者や家族の要望を聞き、納得の行く生活を継続される事を望む。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画では利用者の日常生活動作に関する事は細かく記載されていたが、本人、家族の要望がわかりにくいものとなっていた。	○	本人、家族の要望や目標が日々の生活では十分なされているので、それを記録に残し介護計画に反映される事を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書は6ヶ月ぐらいの見直しとなっているが、状態変化がある時には随時行なうようにはしている。	○	介護計画の見直しをする時にも、家族の意見や要望を反映させる事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開設1年でこれから、事業所の多機能性を活かす支援を検討していく事を考えている。現在は利用者のかかりつけ医院の付き添いに、家族が対応できない時にはやむをえず職員が支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の馴染みのかかりつけ医となっている。協力医の往診はないが、緊急の場合は電話などで対応してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医と重度化や終末期についての話し合い検討中である。適した施設の移動や入院を考慮にいれ、本人、家族とも話し合い、本人の気持ちを考慮しながら検討している。	○	母体法人は病院で他府県であるが協力体制は出来ている。さらに医療連携体制を整え利用者の健康管理や重度化、終末期に対応できる体制を望んでいる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一部の職員を除き、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉はかけていない。家族に個人情報の保護については書面で同意を得ている。	○	ホームの理念のいつも「にこにこ明るい笑顔」を基に明るく、言葉使いをやさしく全職員こぞって利用者本位の対応をされる事を期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で利用者の表情や本人との話し合いで要望を聞いたりして、買い物や散歩、など本人の気持ちを考え支援している。	○	今後も利用者の要望を聞き継続される事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒にしている。同じ物を食べている人と、お弁当を食べている人というが、共に楽しそうに食事をしていった。誕生日の利用者に何が食べたいか希望を聞き今回は「うなぎ」だった。アンパンが好きな人には3時のおやつを、小さいアンパンにしたりしている。後かたづけは利用者が進んで、テーブルを拭いたり。食器を片付けたりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後からの入浴となっている。入浴を嫌がる利用者には時間をおき再度すすめているが無理強いはない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、花の水やり、フローアの掃除など自分の仕事のように、張り合いを持って行っている。	○	今後も継続され、利用者が一人でもおおく、役割を持ち張り合いのある暮らしをされる事を望む。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨の日を除き、ほぼ毎日9時30分頃からお茶を持って公園などに出かけて行っている、他に買い物にも行っている。ホームにベランダがあり、そこのベンチに腰掛たりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけない、利用者の外出したい様子を察した場合は職員はさりげなく一緒に出かけて行くようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けて行なう予定をしたが、急な用事が出来て実行できなかった。しかし、9月には消防署の指導を受ける計画はある。	○	消防署の指導を定期的に受け、又地域との連携や、夜間訓練なども協力を得られるように働きかける事を期待している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、水分摂取量、はおおまかには把握している。体調変化が見られる人には細かい記録を残している。	○	栄養バランスは、市町村の保健婦に時折見てもらい、確認され、水分摂取は利用者にとって大切な事でありぜひ水分摂取量を記録に残されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には利用者の手作りの季節がわかる、きり絵が掲示されていた。食堂、台所、トイレ、浴室ともに使いやすく工夫されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みの写真などはあったが、家族の意向で新しいタンスなどが置いてあった。しかし利用者は居心地よく過ごしている。	○	今後も馴染みの物を持ち込んでもらえる様工夫される事を望む。